

1. 家計の中において、半耐久消費財である被服品がどのような購入量であるか、その支出額はどうか、各被服品目はどのような特長をもつか、階層、居住地区などの生活構造との関係を明らかにする。

2. 昭和34年度、全国消費実態調査報告（総理府統計局）より、現金実収入階級別、1世帯当たり1カ月間の質入数量と支出金額を用いて、被服品50種について購入量の収入階級変動を曲線にしたもの、支出金額の収入階級変動を曲線にしたものをその曲線の型により分類した。

3. 理論的には16種、ここでは10種に分類され、各々その特長をもっている。それらは大きく、必需品と不必要品に分けられる。必需品は収入に関係なく、ある程度の量が必要であり、不必要品は他の品で代替ができ、その量に限界のないものである。必需品であっても収入により、その購入、支出金額が限定され、限られた可処分所得の中で選択が行なわれる。その選択基準は生活構造によるものと考えられる。